

令和2年度 公立大学法人京都市立芸術大学年度計画

中期計画	令和2年度 年度計画
<p><b>第1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置</b></p> <p><b>1 教育に関する目標を達成するためにとるべき措置</b></p> <p><b>(1) 教育の内容と成果に関する目標を達成するための措置</b></p> <p><b>ア 教育の内容と成果の充実を図るための取組</b></p> <p><b>(ア) 学部教育に関する取組</b></p> <p>少人数教育の利点を活かし学びの質を高めるとともに、多様な実践的教育を通して学びの幅を広げる取組を進める。また、領域横断的な教育の推進はもとより、大学移転を見据え京都に集積する優れた資源を活用し、確かな技能、技術及び幅広い教養を修得させ、創造性と豊かな感性を併せ持った人材を育成する。また、実技と学科の有機的な連携をもとに、国際的視野に立った幅広い思考力、コミュニケーション能力や、自由で豊かな発想力の育成を目指し、カリキュラムの改善を図るなど、学部教育の充実に向けた各種取組を着実に進める。</p>	<p><b>第1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置</b></p> <p><b>1 教育に関する目標を達成するためにとるべき措置</b></p> <p><b>(1) 教育の内容と成果に関する目標を達成するための措置</b></p> <p><b>ア 教育の内容と成果の充実を図るための取組</b></p> <p><b>(ア) 学部教育に関する取組</b></p> <p>1 授業や講座等の講師として、京都に関わりがある研究者や作家、音楽家等を中心に、様々な分野で活躍している人材を招聘し、多様な価値観や外部の刺激に触れる機会を提供することにより、学生の制作・演奏・研究等の可能性を広げる実践的な教育に取り組む。</p> <p>2 学部教育の充実を図るため、移転後の美術・音楽両学部共通科目の開講を見据え、時間割の相違など様々な課題について両学部で協議を行うなど、カリキュラムの改善に向けた取組を進める。</p> <p>3 教職課程について、前年度にまとめた人事方針に基づき、体制の整備に取り組むとともに、複数の大学による教職課程の共同設置を活用する制度等について、引き続き検討する。</p>

- 4 教育・研究成果の発表の場である作品展や演奏会等について、学生が自らの創造性を生かし主体的に計画段階から実施に携わるなど、前年度に引き続き積極的に開催する。
- 5 美術学部将来構想委員会の学科教育検討部会において、前年度に検討したカリキュラムの再編案やシラバスの改定案等の将来的な実施を見据えながら、各科目の改善に取り組む。
- 6 美術学部 PC 関連問題検討部会を中心に、ICT の活用と関連した科目の在り方について、検討を行う。
- 7 美術学部において、知の世界の広がりや芸術教育の有機的な連動を図る創造的な授業プログラムを推進する。
  - ・ 「総合基礎実技」の授業において、学科教員の発案による課題を実技教員と合同で行う。また外部から研究者や芸術家を招き、レクチャーやワークショップ等を実技課題と連動させつつ実施する。
  - ・ 「テーマ演習」において、学科教員・実技教員が専攻の枠を越えて協働し、横断的かつ実践的な授業を行う。
- 8 学生へのアンケートを実施し、授業内容等の改善に活用するとともに、シラバスの記載内容を見直すなど、学生の学習の活性化を図るための取組を行う。

**【令和2年度の対象】**

音楽学部：「重唱」，「オペラ実習」

	<p>9 令和 3 年度から管・打楽専攻の専攻細目としてユーフォニアムを新設することに伴い、教育・研究環境について所要の整備を進める。</p> <p>10 授業の内容が演奏会における教育研究活動の成果発表に結びついているかを検証し、教育効果を一層高めるための取組を行う。</p> <p>【令和 2 年度の対象】</p> <p>音楽学部：3 回生オペラ試演会，4 回生オペラ試演会</p>
<p><b>(イ) 大学院教育に関する取組</b></p> <p>質・水準ともに高度な専門的研究教育を通して、高度な技能、技術及び幅広い豊かな教養を修得させる。また、実践を重視した教育研究を推進するとともに、国際感覚を兼ね備え、次代の芸術文化を先導し社会に創造的な活力を与える優れた専門家を育成する。教育研究の更なる充実のため、時代の変化等に応じ、科目内容、指導体制、評価基準、運営体制等の検証を行い、各種取組を着実に進める。</p>	<p><b>(イ) 大学院教育に関する取組</b></p> <p>11 博士（後期）、修士の各課程における指導・審査体制や開講科目の在り方等について、各所管の委員会を中心に検証を行う。</p> <p>12 知的財産権に関する研修会など、学生を対象とした研修を実施する。</p> <p>13 音楽研究科修士課程の科目について、学生へのアンケートを実施し、授業内容等の改善に活用するとともに、シラバスの記載内容を見直すなど、学生の学習の活性化を図るための取組を行う。</p> <p>【令和 2 年度の対象】</p> <p>「オペラ演習」</p> <p>14 令和 3 年度から器楽専攻の専攻細目としてユーフォニアムを新設することに伴い、教育・研究環境について所要の整備を進める。</p>
<p><b>(ウ) 成績評価、学位授与を行うための取組</b></p> <p>成績評価基準及びディプロマ・ポリシーに基づく学位授与基準について検証し、必要に応じて改善を行うとともに学修の成果の</p>	<p><b>(ウ) 成績評価、学位授与を行うための取組</b></p> <p>15 学部・研究科修士課程における授業アンケートの結果を活用し、学修成果の検証・把握を行う。</p>

<p>把握に努める。</p>	<p>【令和2年度の対象】</p> <p>音楽学部：「重唱」，「オペラ実習」</p> <p>音楽研究科修士課程：「オペラ演習」</p>
<p><b>(エ) より優秀な学生の確保に向けた取組</b></p> <p>入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に基づき，芸術の専門教育を受けるにふさわしい適性や能力，意欲を，多面的・総合的に判断する入学者選抜を実施するとともに，効果的な入試情報の発信を図る。</p>	<p><b>(エ) より優秀な学生の確保に向けた取組</b></p> <p>16 大学入学共通テストの実施に伴う成績提供方法の変更に対応できるよう，学籍管理を中心とした大学業務を効率化する新教務システムの運用に向けて準備する。</p> <p>17 入試制度の検証・見直しと新キャンパスにおける入試実施方法の検討を行う。</p> <p>18 入試広報の検証と見直しを行う。</p> <p>19 令和4年度を目途に実施される調査書の電子化に合わせて，WEB出願の導入について検討する。</p> <p>20 美術研究科本科留学生制度※の廃止（令和4年以降）に伴い，美術研究科修士課程学生募集要項に外国人留学生の出願についての案内を明記し周知に努める。</p> <p>※本科留学生制度とは，学位に関係のない研究留学生として在籍する学生が本科留学生選抜試験を受験し，正規の修士課程に進学する制度。近年，一般選抜で受験する外国人留学生も増加しており，学位の取得できる修士課程への進学は一般選抜のみとし，研究留学生は学位を必要とせず自身の研究を深めたい人のための制度として，違いを明確にする。このことにより多様な人材を確保し，大学の教育研究活動のより一層の活性化を目指す。</p>

<p><b>(2) 教育環境等の向上に関する目標を達成するための措置</b></p> <p><b>ア 教育の実施体制の充実に向けた取組</b></p> <p>本学の理念に沿った質の高い教育を実施するため、指導体制の充実に努めるとともに、教育の質を向上させるための研究と実践に取り組む。また、大学移転を見据え、大学コンソーシアム京都をはじめ、他大学との連携による教育の実施体制の充実を検討する。</p>	<p><b>(2) 教育環境等の向上に関する目標を達成するための措置</b></p> <p><b>ア 教育の実施体制の充実に向けた取組</b></p> <p>21 質の高い教育を実施するため、非常勤講師等の職務内容に見合った区分の在り方など、指導体制の充実・整備に向け引き続き検討を行う。</p> <p>22 他の音楽系大学と協力した演奏会等を継続して開催する。</p> <p><b>【開催予定の演奏会】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関西の音楽大学吹奏楽フェスティバル (5月)</li> <li>・ アンサンブルの夕べ (6月)</li> <li>・ 関西の音楽大学オーケストラフェスティバル (9月)</li> </ul> <p>23 芸術資源研究センターのアーカイブ研究会，重点研究プロジェクトへの学生参加者の増加を図るなど，センターとして教育に関わる活動を引き続き積極的に推進する。</p>
<p><b>イ 教育研究に必要な環境等の充実に向けた取組</b></p> <p>学生の自主的な学びの促進はもとより，質の高い教育研究水準の維持・確保に必要な機器等の更新・充実を図るとともに，キャンパス移転後の教育研究環境の在り方も見据えた上で，優れた芸術活動の実践や新たな芸術表現の創出に資する高機能な機材等の導入など，教育施設・環境の整備改善に努める。</p>	<p><b>イ 教育研究に必要な環境等の充実に向けた取組</b></p> <p>24 大学所有の楽器や機材をはじめ，教育研究に必要な設備・備品の更新やメンテナンス，移転を見据えた新たな機器の導入など，教育施設・環境の整備充実に努める。</p> <p>25 教員のためのポータルサイトについて，情報管理システム管理委員会を中心に検討を進め，内容の充実を図る。</p> <p>26 令和3年度稼働予定の新たな教務システムについて，現行システムのデータの円滑な移行及び大学入学共通テストに対応した入試システムのデータ等との連</p>

	<p>携を行うなど、稼働に必要な導入準備を行う。</p> <p>27 芸術資源研究センターにおいて、デジタル資源の適正な保管・共有方法等に関する調査・検討を基に、外部資金等を活用して、検討内容の検証実験に向けた調整等を行う。</p>
<p><b>(3) 学生の支援に関する目標を達成するための措置</b></p> <p><b>ア 学生生活充実のための取組</b></p> <p>学生を取り巻く社会環境の変化に的確に対応しながら、学生生活の充実を図るために、学生の自主的な学内外での活動支援や、心身の健康保持、経済面での支援を強化する。</p>	<p><b>(3) 学生の支援に関する目標を達成するための措置</b></p> <p><b>ア 学生生活充実のための取組</b></p> <p>28 教職員、学生相談室（カウンセラー）、保健室（保健師）の密接な連携と情報の共有等により、心身ともに健康な学生生活を引き続きサポートする。</p> <p>29 安心安全で充実した学生生活を送れるよう、学生向けのAED講習、防犯講習、キャンパス・ハラスメント講習を年1回以上開催するとともに、警察や弁護士会、司法書士会等の外部の団体と連携し、防犯講習や学生生活を送る上で必要となる法律知識などを身につける講習を開催する。また、地震防災対応マニュアルを活用し、防災知識の周知を図る。</p> <p>30 外部の奨学金等の応募を支援するため、情報を整理し、「学生生活の手引き」等に掲載する。また、高等教育の修学支援新制度に基づく給付奨学金及び授業料減免の制度について、支援を必要とする学生に対する周知を徹底して行うとともに、新制度の円滑な実施に取り組む。</p> <p>31 「京芸友の会」「未来の芸術家支援のれん百人衆」に寄せられた寄付金を活用し、学生の自主的な発表活動などを支援する。</p>

<p><b>イ キャリア支援のための取組</b></p> <p>社会情勢を踏まえながら、多様な生き方の提示や社会との結びつきの場の創出などを通じて、学生自身が進路を考えて選択する力を身につけられるよう、在学中のみならず卒業後も対象にキャリアデザインセンターにおける支援の取組を充実する。</p>	<p><b>イ キャリア支援のための取組</b></p> <p>32 各学部と連携し、10年前の卒業生を招いた講演会「10年後の京芸生」等に1回生から参加することができる機会を設け、学生自身が初年度から進路を考える一助となる場を提供する。また、「10年後の京芸生」については、過年度開催分を含む開催結果をホームページ等で周知し、開催内容を常時閲覧可能な状態にする。</p> <p>33 在学中だけでなく、卒業後も活用することができるような、芸術活動・就職活動の垣根を越えた多様な進路を提示するセミナーや講演会、ワークショップ等を開催するとともに、卒業生のキャリア支援につながる活動に取り組む。</p> <p>34 学生の就職活動のサポート体制を強化すべく、外部機関の活用を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 京都府との就職協定に基づく活動</li> <li>・ 公的就職支援機関（京都市わかもの就職支援センター、京都ジョブパーク、京都労働局）との連携</li> <li>・ 京都商工会議所等の経済団体との連携</li> </ul>
<p><b>2 研究に関する目標を達成するための措置</b></p> <p><b>(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置</b></p> <p>教員の自由で多様な研究の更なる推進を図り、その成果を様々な機会を通じて社会に向け積極的に発信する。また、海外の大学との交流強化を推進する。</p> <p>日本伝統音楽研究センターにおいては、京都に集積する文化資</p>	<p><b>2 研究に関する目標を達成するための措置</b></p> <p><b>(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置</b></p> <p>35 教員の研究成果の発信としての展覧会、演奏会等に積極的に取り組むとともに、その広報の充実を図る。</p> <p>36 日本伝統音楽研究センターにおいて、他の研究機関等との共同研究・共同企画を通じて交流・連携を深める。</p>

<p>源の利活用や伝統文化に関する研究機関等との交流・連携を通じて、研究活動の更なる充実を図るとともに、伝統音楽に関する情報共有・普及振興・交流拠点としての機能を高める。</p> <p>芸術資源研究センターにおいては、学内外の教員・学生・研究者・市民間の交流と連携を基盤としつつ、創造的活動を生み出す芸術資源についての研究を推進するとともに、その成果を広く社会・市民に発信し共有する。</p>	<p>【交流・連携予定の研究機関等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国際日本文化研究センター</li> <li>・ 武漢音楽学院</li> <li>・ 山東大学芸術学院</li> <li>・ 上海音楽学院</li> <li>・ 華東師範大学</li> <li>・ スタンフォード大学 等</li> </ul> <p>37 芸術資源研究センターの研究テーマである創造的なアーカイブについて、研究会を開催（年4回程度）するなど、理論と実践についての基礎研究に引き続き取り組む。また、個別研究テーマごとの重点研究プロジェクトについても継続的に推進する。</p> <p>38 前年度に整備したアーカイブの閲覧等に係る指針を基に、これまで重点研究プロジェクトで作成したアーカイブをセンター内で公開する方法の検討及び目録作成等の準備を進める。</p>
<p><b>(2) 研究への支援等に関する目標を達成するための措置</b></p> <p>学生及び教員による研究活動の充実を目指し、学内における研究環境の整備に努める。また、科学研究費をはじめとする外部資金制度の活用促進を図るために必要なサポートを行う。</p>	<p><b>(2) 研究への支援等に関する目標を達成するための措置</b></p> <p>39 本学独自の特別研究助成を継続するとともに、科学研究費をはじめとする外部資金の獲得・活用をサポートするなど、研究環境の整備に努める。</p>

<p><b>3 その他の目標を達成するための措置</b></p> <p><b>(1) 社会・市民への教育研究の成果の還元に関する目標を達成するための措置</b></p> <p>大学が有する知的資源を活用し，広く社会に対して芸術文化に触れ合う機会を提供し，幅広い世代を対象とした芸術文化の振興に貢献する。</p>	<p><b>3 その他の目標を達成するための措置</b></p> <p><b>(1) 社会・市民への教育研究の成果の還元に関する目標を達成するための措置</b></p> <p>40 日本伝統音楽研究センターにおいて，共同研究会などの研究テーマとして「子どもに対する伝統音楽の教育方法」を引き続き取り上げ，研究成果を発信する。</p> <p>41 芸術資料館収蔵品に関する研究成果を発信するための企画展示を実施する。 (収蔵品展5回，150日程度)</p> <p>42 ギャラリー@KCUAにおいて，引き続き企画展，申請展などの展覧会を開催する。 <b>【実施予定の展覧会（10回開催予定）】</b> ・企画展（4回），申請展（4回），芸術資料館収蔵品活用展，同窓会展</p> <p>43 創立140周年及び日本伝統音楽研究センター創設20周年を記念した展覧会や，演奏会等を開催する。</p>
<p><b>(2) 学外連携に関する目標を達成するための措置</b></p> <p><b>ア 教育機関・文化芸術機関等との連携推進に係る取組</b></p> <p>小・中・高等学校や他大学等の教育機関や文化芸術機関等との連携により，芸術に携わる次世代の育成に貢献するとともに，京都の伝統文化の継承や芸術文化の裾野を広げることに貢献する。</p>	<p><b>(2) 学外連携に関する目標を達成するための措置</b></p> <p><b>ア 教育機関・文化芸術機関等との連携推進に係る取組</b></p> <p>44 桂坂小学校でのカザラッカコンサートの開催や，小学校での授業・ワークショップの実施など，小中高等学校との連携を深め，芸術文化の裾野を広げる活動を行うとともに，京都芸術教育コンソーシアムにおける芸術教育に関する共同研究を継続する。</p>

- 45 他大学との連携を深め、教育内容の充実及び人材育成の向上を目指す。
- 46 学生に実践的な学びの場を提供するため、前年度に締結した京都市交響楽団との連携協定に基づき、京都市交響楽団の演奏会への学生の出演などの取組を継続する。
- 47 京都国立近代美術館との連携や、京都・大学ミュージアム連携への参画等の事業を継続して実施する。
- 48 教員が出張授業を実施するなど、キャンパス移転後を見据え、京都市立京都堀川音楽高校及び銅駝美術工芸高校との協力関係の充実を図る。
- 49 一般社団法人として活動を始める「京都子どもの音楽教室」との連携をより一層深めるための取組を行う。
- 50 (再掲) 日本伝統音楽研究センターにおいて、他の研究機関等との共同研究・共同企画を通じて交流・連携を深める。

**【交流・連携予定の研究機関等】**

- ・ 国際日本文化研究センター
- ・ 武漢音楽学院
- ・ 山東大学芸術学院
- ・ 上海音楽学院
- ・ 華東師範大学
- ・ スタンフォード大学 等

<p><b>イ 産学連携の推進に係る取組</b></p> <p>研究事業の受託を通じて企業等と連携することにより、教育研究の成果を社会に発信するとともに、伝統産業をはじめとする地域の産業発展に貢献する。</p>	<p><b>イ 産学連携の推進に係る取組</b></p> <p>51 京都駅ビル開発㈱との連携、京都市産業技術研究所との共同研究をはじめとした、京都市内外の企業等から依頼される作品やデザイン制作等の受託研究事業に継続して取り組む。</p>
<p><b>ウ 地域連携の推進に係る取組</b></p> <p>地域の各種団体等との連携を推進し、大学の資源や教育研究の成果を地域に発信することにより、芸術文化によるまちづくりに貢献する。</p>	<p><b>ウ 地域連携の推進に係る取組</b></p> <p>52 洛西地域におけるイベントへの参加や本学の移転により大きく変わる崇仁地域のまちづくりについて、引き続き積極的に関わるなど、各地域における事業に取り組み、連携強化を図る。</p> <p><b>【実施予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 崇仁エリアマネジメントへの参加</li> <li>・ 下京区ふれ愛ひろば等への参加</li> <li>・ 崇仁地域での移転整備プレ事業の実施</li> <li>・ 下京渉成小学校、境谷小学校でのレジデンスの実施</li> <li>・ カザラッカコンサートの実施</li> <li>・ 西文化会館ウエスティ、北文化会館での演奏会の実施</li> </ul>
<p><b>(3) 国際化の推進に関する目標を達成するための措置</b></p> <p><b>ア 国際交流の充実に向けた取組</b></p> <p>交流協定締結校をはじめ、海外の優れた大学との活発な連携による教員間・学生間の交流の充実や、海外アーティストの招聘等を通じて本学の国際化を促進する。</p>	<p><b>(3) 国際化の推進に関する目標を達成するための措置</b></p> <p><b>ア 国際交流の充実に向けた取組</b></p> <p>53 交換留学に対する学生や教員へのアンケート結果に基づき、交換留学件数の増加及び教員間の交流促進のための取組を検討する。</p>

	<p>54 全学及び各部局の国際交流への展望に基づき、新たな交流協定締結や交流協定締結校との活発な連携事業を実施する等、本学の国際化を促進する取組を検討する。</p> <p>(ロイヤル・カレッジ・オブ・アートとの交流協定締結 30 周年事業の実施)</p> <p>55 本学からの派遣留学生及び海外からの受入留学生の成果を発表する機会を引き続き設けるとともに、前年度までは@KCUA で行っていた留学生展を本学での開催に変更することで留学生と日本人学生との交流の促進を図る。</p> <p>56 国際的に活躍する講師を招聘し、特別授業を実施する。</p>
<p><b>イ 留学支援のための取組</b></p> <p>協定校への派遣留学をはじめ、学生が海外留学を通して学び成長する機会を提供しサポートする。</p> <p>また、留学生の学びの充実と日本での生活上の安心安全を確保するため、学外機関と協力して留学生のサポート体制を強化する。</p>	<p><b>イ 留学支援のための取組</b></p> <p>57 派遣学生に対し、危機管理、生活上の情報提供等のサポートを行う。</p> <p>58 留学生の受入れに対して、日本語学習や生活上の情報提供等のサポートを行うとともに、日本語講座の開設や教員との受入手順の共有等、学内のサポート体制の充実に向けた方策を検討する。</p>
<p><b>第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置</b></p> <p><b>1 組織の見直しと経営の効率化に関する目標を達成するための取組</b></p> <p>教育内容、教育方法及びカリキュラム編成への的確な対応はもとより、大学を取り巻く社会環境の変化や全学的な課題に対応す</p>	<p><b>第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置</b></p> <p><b>1 組織の見直しと経営の効率化に関する目標を達成するための取組</b></p> <p>59 理事会のリーダーシップの下、キャンパス移転や学内外の変化に応じた組織体制、将来的な大学の在り方について検討を進める。</p>

<p>るため、理事会のリーダーシップの下、組織の枠を超えた全学的な視点から、適宜、組織の再編や学内資源の再配分など、計画的、機動的な組織運営を行う。</p> <p>また、常に業務の見直しを行い、効率的かつ合理的な事務執行を推進する。</p>	<p>60 五芸大、公立大学協会等との連携を継続し、大学運営に係る各種情報の共有に努める。</p> <p>61 ペーパーレス会議システム導入の検討や文書管理の見直しなど、効率的な事務の執行を推進する。</p>
<p><b>2 組織力の向上に関する目標を達成するための取組</b></p> <p>大学の理念に基づく教育研究活動及び運営を支えるため、人事制度等について必要な見直しを図る。</p> <p>また、中長期的な展望に立った人材の採用・育成を通じて、教職員個々の意欲・能力を高め、組織力の向上に繋げる。</p>	<p><b>2 組織力の向上に関する目標を達成するための取組</b></p> <p>62 教育研究・業務の特性に応じた多様な人材を採用するとともに、教職員の柔軟な働き方の実現に向けて、短時間勤務や振替休日などの制度の充実を図る。また、必要に応じて人事制度等の見直しを図る。</p> <p>63 学内の研修はもとより、外部機関が実施する講座等の情報収集に努め、積極的な受講を勧奨するなど、教職員一人一人の意欲・能力の向上に取り組む。</p>
<p><b>第3 財務内容の改善に関する目標を達成するために取るべき措置</b></p> <p><b>1 外部資金その他の自己収入の増加に関する目標を達成するための措置</b></p> <p>法人運営の安定性と自律性を確保するため、外部研究資金や寄付金等自己収入の増加に向けた取り組みを強化する。</p>	<p><b>第3 財務内容の改善に関する目標を達成するために取るべき措置</b></p> <p><b>1 外部資金その他の自己収入の増加に関する目標を達成するための措置</b></p> <p>64 産学連携の取組に伴う受託研究事業費の獲得や@KCUAの展覧会への助成金の獲得など、全学的に外部資金の更なる獲得に努める。</p> <p>65 「未来の芸術家支援のれん百人衆」、「京芸友の会」等の寄付制度の周知を図り、引き続き安定した寄付金の獲得に取り組む。</p> <p>66 キャンパス移転を見据え体制を強化し、施設整備基金への寄付の獲得に取り組む。</p>

<p><b>2 経費の効率化に関する目標を達成するための措置</b></p> <p>業務運営や事務体制を絶えず見直すとともに、業務内容の精査・点検に努め、効率的かつ効果的な経費執行に努める。</p>	<p><b>2 経費の効率化に関する目標を達成するための措置</b></p> <p>67 物品等の調達に係る契約手法や契約の在り方について見直しを行い、業務内容の点検を実施する。（入札案件拡充、立替払い案件の低減 など）</p>
<p><b>3 資産の適正な管理と有効活用に関する目標を達成するための措置</b></p> <p>資産の適正な管理及び有効活用を図る。</p>	<p><b>3 資産の適正な管理と有効活用に関する目標を達成するための措置</b></p> <p>68 複数事業者比較による最適かつ有利な大口定期運用や、資産の有効活用について検討する。</p> <p>69 循環照合（複数年をかけた収蔵品の照合）及び附属図書館の蔵書点検を実施する。</p> <p>【循環照合の実施予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 芸術資料館 （平成31～令和3年度計画分）</li> <li>・ 日本伝統音楽研究センター資料室 （令和2～3年度計画分）</li> </ul> <p>70 （再掲）芸術資料館収蔵品に関する研究成果を発信するための企画展示を実施する。（収蔵品展5回、150日程度）</p> <p>71 附属図書館において、引き続き企画展示（年10回程度）を実施するなど、学生の利用促進を図る。</p>

<p><b>第4 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標を達成するために取るべき措置</b></p> <p><b>1 評価の充実に関する目標を達成するための措置</b></p> <p>中期計画・年度計画に対する自己点検・評価を着実にを行うとともに、評価結果を速やかに公表することで、透明性の高い法人運営に努める。</p> <p>また、第2期中期計画期間中に受審する認証評価に的確に対応するため、全学的な内部質保証システムを見直し、学内における業務運営のPDCAサイクルの確立を目指す。</p>	<p><b>第4 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標を達成するために取るべき措置</b></p> <p><b>1 評価の充実に関する目標を達成するための措置</b></p> <p>72 年度計画の実施状況について、自己点検・評価委員会を中心に、自己点検・評価を着実にを行う。また、京都市評価委員会による評価結果については速やかにホームページに公表する。</p> <p>73 第3期認証評価受審に向けた学内準備及び自己点検・評価を実施し、「点検・評価報告書」としてまとめる。</p>
<p><b>2 広報の充実に関する目標を達成するための措置</b></p> <p>教育、研究を中心とする活動状況を積極的に発信し、大学の取組に対する理解の促進及び広範な支援の獲得に繋げる。また、迅速かつ効果的な広報を行うことができるよう、事務局広報体制の見直しを図り、情報発信力を強化する。</p>	<p><b>2 広報の充実に関する目標を達成するための措置</b></p> <p>74 ホームページやSNS、大学案内等の広報冊子などの様々な広報媒体・機会を活用し、積極的に情報発信を行うとともに、それらの内容の改善に努める。</p> <p>75 入学志願者の確保やキャンパス移転に向けた寄付金の獲得に向けて広報発信の強化に取り組む。</p> <p>76 創立140周年について、ロゴマーク等を活用し、積極的な情報発信に努めるとともに、日本伝統音楽研究センター創設20周年について同センターを中心に記念事業の実施などを行う。</p> <p>77 キャンパス移転に向け、全学広報委員会で大学シンボルマーク及びロゴマークの検討を開始する。</p>

<p><b>第5 キャンパス移転に向けた取組の推進に関する目標を達成するための措置</b></p> <p>平成35年度に予定しているキャンパス移転が円滑に進捗し、完了できるよう必要となる様々な事案に適宜取り組む。</p> <p>また、移転を見据え、学内各附属施設等の担う機能・役割を再考し、様々な芸術資源や教育研究成果等を基軸とする新たな機構「創造連環機構」(Com Path Cross) (仮称)を構想し、本学独自の「知と創造のありか」の探求及び教育・研究・創造の連携を図る。</p> <p>移転が完了するまでの間、移転の機運を持続して高めるとともに、地域との交流を深めるため、移転整備プレ事業を展開する。</p>	<p><b>第5 キャンパス移転に向けた取組の推進に関する目標を達成するための措置</b></p> <p>78 令和5年度の移転に向けて新キャンパスの設計図をもとに、移転後の諸室における設備家具等の配置の検証など、課題を整理するとともに、移転後の各機関の活動を見据えた詳細な検討に着手する。</p> <p>79 移転後の施設管理業務の在り方について検討を行う。</p> <p>80 令和5年度の移転までの間、キャンパス移転先の崇仁地域はもとより、広く京都市民に移転の機運を高めるため、引き続き様々な移転整備プレ事業を実施する。</p> <p>81 移転後の附属施設をはじめとする各施設の運営体制や活動内容などを検討する。</p>
<p><b>第6 その他の業務運営に関する重要目標を達成するために取るべき措置</b></p> <p><b>1 施設設備の整備等に関する目標を達成するための措置</b></p> <p>移転までの間、既存施設の維持管理を適正、合理的に実施する。また、キャンパス移転後を見据え、最適な維持管理に向けた検討を行う。</p>	<p><b>第6 その他の業務運営に関する重要目標を達成するために取るべき措置</b></p> <p><b>1 施設設備の整備等に関する目標を達成するための措置</b></p> <p>82 現キャンパスの要修繕箇所について、施設マネジメント会議の開催を通じて情報を共有し、令和5年度の移転を見据えながら、良好な教育研究環境を確保するため必要な措置を講じる。</p> <p>83 (再掲) 大学所有の楽器や機材をはじめ、教育研究に必要な設備・備品の更新やメンテナンス、移転を見据えた新たな機器の導入など、教育施設・環境の整備充実に努める。</p>

<p><b>2 安全管理に関する目標を達成するための措置</b></p> <p>全ての学生及び教職員が安全で安心して学び、働ける環境を確保するため、全学的な安全管理体制を強化する。</p>	<p><b>2 安全管理に関する目標を達成するための措置</b></p> <p>84 産業医による法定の職場巡視（月1回）を実施し、安全衛生委員会を定期的に開催するなど、関係法令を踏まえた安全な学内環境の形成を推進する。また、各機関で管理する機材等の安全な取扱いを再確認するとともに、事故が発生した場合の対応について全学的に周知徹底する。さらに、学生及び教職員の安全に対する意識の向上に努め、安全管理体制の強化を図る。</p> <p>85 平成30年度に作成した「地震防災対応マニュアル」の周知を徹底するとともに、危機発生時の業務継続計画及び具体的な行動マニュアルを整備し、大学における危機管理体制の整備に取り組む。</p> <p>86 教職員の心身の健康を維持するため、定期健康診断の受診率向上に向けた取組やストレスチェックの実施と実施後のフォロー等を着実にを行うとともに、健康管理サポート体制の充実を検討する。</p>
<p><b>3 法令遵守及び人権の尊重に関する目標を達成するための措置</b></p> <p>公立大学法人として、学生や市民、地域社会から信頼される法人運営のために、教職員に対し、法令や学内規程等の遵守及び人権尊重の徹底を図る。</p>	<p><b>3 法令遵守及び人権の尊重に関する目標を達成するための措置</b></p> <p>87 教職員に法令や学内規程等の遵守を徹底させるため、サービスや経理事務に関する研修や啓発等の取組を実施する。</p> <p>88 互いの人権を尊重し、全ての教職員が働きやすく風通しのよい職場環境の実現に向けて、全学的に取り組む。</p>

## **第7 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画**

別紙参照

## **第8 短期借入金の限度額**

### **1 短期借入金の限度額**

2億円

### **2 想定される理由**

運営費交付金の受入遅延及び事故の発生等により、緊急に必要となる対策費として借り入れることが想定される。

## **第9 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画**

予定なし

## **第10 剰余金の使途**

決算において剰余金が発生した場合は、使途を把握し、教育研究の質の向上及び組織運営の改善に充てる。

## **第11 その他**

### **1 施設・設備に関する計画**

第5「キャンパス移転に向けた取組の推進に関する目標を達成するための措置」及び第6 1「施設設備の整備等に関する目標を達成するための措置」に記載のとおり。

### **2 人事に関する計画**

第2 2「組織力の向上に関する目標を達成するための取組」に記載のとおり。

(別紙)

第7 予算(人件費の見積りを含む。), 収支計画及び資金計画

1 予算

令和2年度 予算

(単位:百万円)

区 分	金 額
収入	
運営費交付金	1,601
補助金収入	27
授業料等収入	694
受託研究等収入及び寄附金等	40
その他収入	21
目的積立金取崩	6
計	2,389
支出	
人件費	1,740
教育研究費	434
受託研究費等及び寄附金事業等	40
一般管理費	175
計	2,389

注) 退職手当については、公立大学法人京都市立芸術大学職員退職手当支給規程の規定に基づき支給し、当該年度において所要額が運営費交付金として財源措置される。

## 2 収支計画

### 令和2年度 収支計画

(単位：百万円)

区 分	金 額
費用の部	2,404
経常費用	2,404
業務費	2,214
教育研究経費	434
受託研究等経費	40
人件費	1,740
一般管理費	175
財務費用	0
雑損	0
減価償却費	15
臨時損失	0
収入の部	2,404
経常収益	2,398
運営費交付金収益	1,601
補助金等収益	27
授業料等収益	694
受託研究等収益（寄附金等を含む）	40
雑益	21
資産見返負債戻入	15
資産見返運営費交付金等戻入	12
資産見返補助金戻入	2
資産見返寄附金戻入	1
資産見返物品受贈額戻入	0
目的積立金取崩	6

### 3 資金計画

#### 令和2年度 資金計画

(単位：百万円)

区 分	金 額
資金支出	2,852
業務活動による支出	2,389
投資活動による支出	0
財務活動による支出	0
次年度への繰越金	463
資金収入	2,852
業務活動による収入	2,383
運営費交付金収入	1,601
補助金収入	27
授業料等収入	694
受託研究等収入	40
その他収入	21
投資活動による収入	0
財務活動による収入	0
前年度からの繰越金	463

注) 前年度からの繰越金及び次年度への繰越金は、奨学基金、芸術教育振興基金及び目的積立金等である。